

【大会報告】

第 42 回日本基礎老化学会大会を終えて

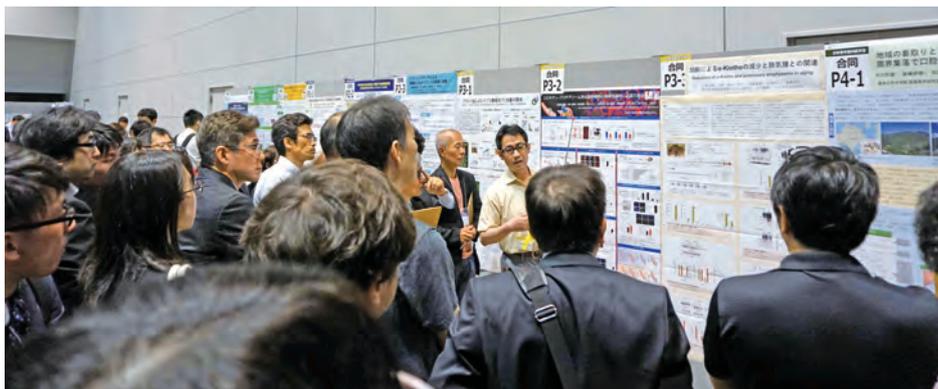
石神 昭人

東京都健康長寿医療センター研究所 老化制御研究チーム 分子老化制御
研究部長 チームリーダー

令和元年6月6日から8日までの3日間にわたり、東北の仙台国際センターにて第42回日本基礎老化学会大会を開催しました。今回の大会は、老年学に関係する7つの学会（老年医学会、老年社会科学会、基礎老化学会、老年歯科医学会、老年精神医学会、ケアマネジメント学会、老年看護学会）が共催する第31回日本老年学会総会の一環として基礎老化学会大会を開催しました。老年学会総会の準備期間には、2年間の月日を要し、その間に東北大学加齢医学研究所において計10回の合同会議を開きました。老年学会総会を成功させるため、共催する他の学会大会長の先生方と有意義な議論ができたことは、私にとっても素晴らしい経験と財産になりました。老年学会総会では、その時に注目が集まっている高齢者を取り巻く様々な社会問題や高齢者疾患についてのシンポジウムを多く企画し、問題解決の方策やその根本的な原因が何かを探るため、いろいろな観点から議論します。今回は14の合同シンポジウムを企画しました。その中でも基礎老化学会からは、「フレイル・サルコペニア・健康寿命」（オーガナイザー、演者として東京都健康長寿医療センター研究所、重本和宏先生）と「老化制御の可能性」（オーガナイザー、演者として私、大会長）という2つの合同シンポジウムを主幹しました。また、「老年学における認知症研究の最前線」（演者として国立長寿医療研究センター、木村展之先生）、「AI（人工知能）は超高齢社会の課題を救えるのか」（演者として東京都健康長寿医療センター研究所、坂田宗之先生）、「栄養・食べる力」（座長、演者として東京理科大学、樋上賀一先生）、「オーラルヘルス・在宅における口腔のケア・誤嚥性肺炎予防」（演者として東京都健康長寿医療センター研究所、堀田晴美先生）にも基礎老化学会の代

表としてご発表頂きました。どの合同シンポジウムも多くの方々にご参加頂き、質疑応答で熱い議論を交わしました。さらに、老年学会総会合同ポスターでは、基礎老化学会を代表して国立長寿医療研究センターの津田玲生先生に演題名「アミロイドβによるシナプス機能低下と加齢の関係」、熊本大学の北嶋康雄先生に演題名「ユビキチン-プロテアソーム系は筋幹細胞の恒常性維持に必須である」、東京都健康長寿医療センター研究所の萬谷博先生に演題名「加齢によるα-Klothoの減少と肺気腫との関連」についてポスター発表をして頂きました。これら3つの演題は、基礎老化学会の一般演題から基礎老化学会大会プログラム委員により選出された優れた研究発表です。そして、萬谷博先生の発表演題に対して日本老年学会優秀ポスター賞を受賞しました。3日間にわたる第31回日本老年学会総会には、9,500名を超える皆様にご参加頂きました。

第42回日本基礎老化学会大会では、学会会員から12名の大会組織委員と13名のプログラム委員の先生方にご協力頂き、シンポジウムの企画や大会全体プログラムの作成、そして学会奨励賞の選出を行いました。このように多くの先生方に委員をお願いした理由は、少しでも議論が活発になる大会にしたかったのと多くの会員の先生方に大会やその運営に参加して頂きたかったからです。また、今大会では、私の希望としてシンポジウムや口頭発表での演者は、できるだけ会員の中から選び、会員が1人でも多く自分自身の研究発表や議論をできるようにしたかったからです。そのため、いつもより多くの先生方に大会組織委員やプログラム委員をお願いしました。その甲斐もあり、企画された6つのシンポジウム「機能性食品による老化制御戦略」、「核構造と老化・疾患」、



「老化シグナルとがん」、「幹細胞老化と加齢性疾患・早老症」、「健康長寿と東洋医学」、「モデル動物と老化研究」は、私の知識が及ばない最先端の老化研究や今までにはない基礎老化学会独自のシンポジウムとなりました。どのシンポジウムも思い出すだけでワクワクするような研究発表の連続でした。基礎老化研究にとってとてもタイムリーでアトラクティブなシンポジウムを企画して頂き、また自らも座長や演者を兼任して頂いたプログラム委員の先生方には感謝しきれません。この場を持って改めて御礼申し上げます。

今大会より、遠藤玉夫先生、新海正先生、森望先生の3名の先生方が新しく名誉会員になりました。長年に渡り基礎老化学会を牽引し、学会の発展に大きく貢献して頂いたことは、皆感謝しきれません。心よりお祝い申し上げます。本来、名誉会員授与式は大会で行うのが通例ですが、大会プログラムの時間的余裕がなく、懇親会場で授与式を行わせて頂きました。そして、新名誉会員の先生方には、お酒が少し入った中でしたが、基礎老化学会での思い出深い昔話やこれからの展望についてお話し頂きました。残念ながら、森望先生には今回ご出席頂けませんでした。直前にスライドと原稿をお送り頂き、私が挨拶文を代読させて頂きました。先生方の話を伺っていると昔の基礎老化学会での出来事が懐かしく思い出されました。これからも名誉会員として基礎老化学会がさらに発展するため、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。また、現在、名誉会員であられる石井直明先生、丸山直記先生、後藤佐多良先生の3名の名誉会員の先生方にも懇親会でお話し頂きました。皆さん現役でお仕事や研究をされておられるのはとても素晴らしいと感じました。さらに韓国からは、私の古い友人でもあるハリムン大学の Yong-Sun Kim 先生、Eun-Kyoung Choi 先生、釜山大学の Jaewon Lee 先生にも来て頂き、懇親会でのご挨拶や大会シンポジウムでご発表頂きました。懇親会には、87名という多くの方々に来

て頂きました。時間の制約により会場ではできなかった研究の議論ができたこと、普段はあまり会えない研究者同士の懇親を深めることができたこと、そして何よりも楽しい会にできたこと、大会長として本当に感謝申し上げます。

今回の基礎老化学会のメインテーマは、私が所属する研究チームのメインテーマでもあることから、「健康長寿社会の実現を目指した老化制御研究」とさせて頂きました。今大会では、前述の6つのシンポジウム以外にも会員から47演題という多くのポスター発表をして頂きました。また、ポスター発表の演題の中から11演題について口頭での発表も頂きました。会員の皆様はご存じのように基礎老化学会大会では優秀な研究発表に対して、日本基礎老化学会奨励賞を授与しています。今大会では、私の希望もあり大学院生の発表演題に対する奨励賞として日本基礎老化学会学生奨励賞を別に設けさせて頂きました。これは、1人でも多くの研究者や大学院生が奨励賞を受賞できるようにその機会を増やすのと同時にこの賞をステップにして老化研究を更に発展させて頂きたいという強い思いがあったからです。厳選の結果、熊本大学の北嶋康雄先生、東京都健康長寿医療センター研究所の板倉陽子先生、千葉大学の金周元先生の3名の先生方が日本基礎老化学会奨励賞を受賞されました。また、慶應義塾大学の久松大介先生、東京理科大学の平尾勇人先生、早稲田大学の王梓先生の3名の大学院生が日本基礎老化学会学生奨励賞を受賞されました。さらに今大会では、奨励賞とは別に議論を活発に行った先生を讃えるためベストディスカッサー賞を設けさせて頂きました。これは、私が議論を活発に行う大会を目指していたためです。勝手ながら大会委員の先生方をお願いして、この賞の選考に関しては、大会長に一任させて頂きました。そして、国立長寿医療研究センターの津田玲生先生、浜松医科大学の伊藤孝先生にベストディスカッサー賞を授与させて頂きました。お二人の先生方には、多くの発



展的な質問やコメントを頂き、大会全体の議論を活発にして頂きました。とても感謝できません。

第42回日本基礎老化学会大会には、178名の方々にご参加頂きました。多くの方々にご参加頂けたこと本当に感謝しております。昨今、大会の運営は大会参加費のみで賄うことは到底できず、多くの協賛企業や公益財団法人のご支援がない限りできないのが実情です。ご支援頂きました多くの協賛企業や公益財団法人の皆様がこの

場を持って深く感謝申し上げます。また、魅力的なランチンセミナーを共催して頂きました株式会社リソウ、メロディアン株式会社にも深く感謝申し上げます。最後になりますが、大会運営や私を支えてくれた研究室のスタッフ、およびお手伝い頂いた大学院生の皆さんに深く感謝申し上げます。今後の会員皆様の研究の進展と日本基礎老化学会の益々の繁栄を祈ります。

